

弘法大師正御影供

4月27日(水) 午前10時より

(旧暦 3月21日)



轉法輪

毗訶の方袍は
偏に仏經を翫び
槐序の茂蔭は
空しく外書に耽る
弘法大師

平成二十八年四月一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五二四七二七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

春の光がうららかに、庫裏の縁側にそそいでいます。寒さ厳しい冬を乗り越え、明るく恵み深い春がまた訪れました。

本年も大師報恩のおまつり「正御影供」を厳修致します。

皆さまお誘い合わせのうえご参詣下さい。

法 要 午前十時より

内吉野結衆寺院総出仕

講 演 午後一時より

連続講座「心ひかれる仏教の話」

第一回「鑑真和尚の足跡をたどる」

帝塚山大学教授

西山 厚先生

もちまき

二時半より境内にて

昼食接待

シャトルバス運行

橋本駅より

犬飼山轉法輪寺

〈お大師さまのお言葉〉 寺の僧侶は仏教ばかりを学び、大学の秀才は、仏典以外の学問ばかり学んでいる。 ※ 8 ページにて解説しています。

共に生きる

轉法輪寺住職 桑山慈紹



先日、寶藏院（兼務寺）総代の戌亥さんより、「和尚さん、お寺の施餓鬼壇が随分古くなって傷んでいたの、新しく作り直しました。前のように、壇に仏さまの名前を書いて欲しい」とお願いを受けました。見ると約百年も前

の施餓鬼壇で、筆の跡も美しく浄写されています。これは大変に有難いことと感謝し、謹写させて頂きました。完成までの数日間、様々なことを経験いたしました。

まず、施餓鬼壇とは沢山の精霊が救いを求めて集まる所だということ、猪や鹿、鳥等の動物霊から小さい虫たちまで、多くのものが救いを求めているのです。その霊たちのお供養を、不動尊護摩供を奉修しご祈念致しました。更に夕方には施餓鬼供養を繰り返しました。このたび施餓鬼壇の新調という勝縁を頂いたことに心から感謝すると共に、私達は沢山の命を頂きながら生きていくことに感謝し、そしてその命を供養する事を忘れない様にしなければならぬと実感致しました。

施餓鬼のお供養は、お盆だけのものではありません。高野山では、毎晩お施餓鬼のお勤めを致します。ご家庭向けの施餓鬼供養をお伝えいたします。

先、夕刻屋外にて、お椀にご飯と水を入れたものを供える

次、般若心経一〜三巻

次、地藏尊真言七返

次、光明真言七返

次、大師御宝号七返

次、回向

※施餓鬼の供物は、お供養が終わったら処分する。

施餓鬼供養の功德はお釈迦様の時代から説かれています。

○施餓鬼の由来

お釈迦様の弟子の一人、阿難尊者は、一人で静かに座り、み教えのことを考えていました。真夜中ごろになって、とても醜い顔をして身体は痩せこけ、しかも口の中から火が燃えて咽喉は針のように細く、頭髪を振り乱し爪と牙が鋭く伸びた、身の毛もよだつような恐ろしい焰口餓鬼が現れました。餓鬼

お施餓鬼について不明な点があれば、住職までご相談ください。

輪 法 轉 (3)

は「お前の命はもうあと三日で尽きるのだ。そして死んだらお前は餓鬼道に落ちて、俺のようになるのだよ」と言いました。

阿難尊者はびっくりして、どうしたらそんなことにならなくて済むか、お釈迦様に尋ねました。「阿難よ、怖がるな。ここに施餓鬼の法がある。この陀羅尼を誦して茶碗一杯の食べ物や物を施せば、その食べ物は無量の御馳走となり、全ての餓鬼たちは十分に満たされる」と教えられました。阿難尊者は、お釈迦様の言う通りにして餓鬼を救い、その功德によって寿命が延び、苦境に落ちることを免れたと仏典に説かれています。『救拔焰口餓鬼陀羅尼經』



生かせいのうち

【第四十九話】

名誉住職 桑山聖規



私達が日々生きる為に必要なのは、今さら言うまでもなく衣食住です。その衣食住を支えるものは天地大自然である地水火風空であります。この五大

は無料で無量無限に与えられています。これが我等を生かして下さっている神佛です。こう考えてみると、私達は佛の世界に生かされている事がわかります。本当に有難いと感謝の心が湧き出てきます。

地の神、水の神、火の神、風の神、空の神に感謝すればするほどに有難さが増えてきます。佛の子、神の子という事が実感できたら神佛の心を自分の身心に入れて行動しましょう。それは、他の人の利益になること、安楽になることを物心の両面よりさせてもらおうと誓って実行することです。これは生きた菩薩の行いであり、拝みあい助け合って、尊い生命をより良く生かすことが弘法大師の御教えであります。

生かすことの反対は殺すことで、十善戒の始めに不殺生戒が説かれています。大きな殺人は戦争です。日本国も昭和二十年まで長く戦争をして何百万

◎御詠歌講 未経験でも大丈夫。少人数で基礎から指導しています。一緒にお寺の行事や、本山の大会に出てみませんか？

人という人を殺してしまいました。日本人による犠牲者も多く、各地に犠牲者を多く出したことは反省懺悔の思いです。大殺生である戦争が、地球上でも行われていることに心を痛め、生命の御親なる佛や神は嘆いておられることを思い、一刻も早く戦争をやめてほしいと願うものは私だけではないと思います。

さて今度は自身の事です。大切な命を短くする心は、第一には怒る事、第二には心配する事、第三には不平不満に生きる事、第四には争いをする事です。食事にしても、好きなものには食べ過ぎ、飲み過ぎる一方で、大切な栄養は不足しているなど、頭ではわかっている事でも時々脱線して胃や肝臓、心臓病を患ってしまいます。佛道修行者の食事訓には、食事は命を生かす大切な薬として食べよと教えられています。世界には何十億という人間がいます

が、自分と同じ人はありません。「天上天下唯我独尊」とお釈迦様は言われましたが、これはお釈迦様一人が尊いという事ではなく「我ら一人一人が尊い」と教えられているのです。自分の身体を大切に、また総ての人を大切に。命を生かすように日々努力して、幸せを皆さんと築き上げて欲しいと念願しています。

合掌

御膳帳のお願い

三月よりお世話のさまに正御影供の御膳帳を持って回って頂いています。

弘法大師御入定のおまつりである正御影供は、皆様に御喜捨いただいた浄財によって修行させて頂いております。なにとぞご協力よろしくお願ひ申し上げます。



心に宝をー19ー

先祖と共に

平成二十八年 春彼岸



橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚善

少し前の事ですが、灌行を日課としていた頃の話です。

午前三時起床、身支度を整え本堂前へ。ロウソク線香を灯し、御法樂を奉げ、菅笠を被り金剛杖を手に歩き出します。

当山から裏山の奥の瀧までは約二キロあり、人家の無い真つ暗な山道を月明かりだけを頼りに登っていきます。初めのうちはとても怖くて、月明かりに照らされた木々が人の顔に見えたり、山中を徘徊する野生動物の足音が

輪

法

轉

(5)

急に聞こえますと一瞬肝を冷やしたりしながら、四十分程で瀧を見下ろす小さな山小屋へ到着です。そして禪ぜんに着替え、道から山の谷の急斜面を下ってから三メートル程のほぼ垂直の岩場を降り、やっと滝壺の前へ。ロウソクを一本灯すと暗闇の中に厳かな瀧が仄ほかに白く浮かび上がります。ひと通りの作法のあと、気合いを入れ、身の丈ほどの深さの滝壺へ入り、瀧からの激しい水流に逆らい滝壺の淵の岩につかまりながら何とか瀧の真下へ近づき、身体をはじき飛ばされそうな瀧の流心に立ち、印を結び一心不乱に心経・不動真言等を唱えます。その間、腰まで滝壺に浸かつておられますので、足元で瀧からの激しい水流が渦を巻いておりません。すると時々滝壺に沈んでいる落ち葉や枯れ枝等が足に触れ、これまた肝を冷やし、河童さんか何かが、私の足を持って滝壺に引きずり込むのではないかと思ったりした事もありました。

そして迎えた、ちょうど百日目の事です。

いつものように何とか行を終え、滝壺から這はい上がり瀧に向き直り、一礼を捧げようとしたりした時の事です。急になんともしえない神々しんごうしい光（月明かり）がスポットライトの様に、瀧の頭上を覆うような木々の僅わずかな隙間から差し込み、滝壺の底が急に明るくエメラルドグリーンに輝きだしたかと思うと、先ほどまで入らせて頂いていた瀧がキラキラと輝きだし、まるで神々しい龍の様に浮かびあがったのです。その美しさは言葉で表現出来ない程で、只々、「ああ、私はこんなにも有難いお瀧で行をさせて頂いていたのか。ああ、何と勿体もったいないことです。」と深く深く頭を垂れ手を合わせました。そして、ゆっくりと顔を上げ、今度は頭上を仰ぎ見た時、「はっ。」と気付いたのです。「今までは瀧に打たれる事ばかりに目が行っていたけども、瀧だけが独立して存

在しているのではない。優しい明かりをくれる大宇宙の星々があり、そしてこの母なる星、地球があり、大地があつて、山や川、清らかな水や空気があつてこそ、目の前の神々しい瀧がある。」ということ、「瀧だけではなく天地一切の全部に感謝をしなければいけないのではないか。」と心から思いました。そして同時に、今まで一人きりで暗い山の中に入り、「怖い怖い」と思った事も度々ありましたが、同じように考えますと、「私」も突然この世に現れたのではなく、父母があり、またその上に二組の父母が居て、更に遡さかのぼっていけば「無数の父母が居てくれてこそ、今の私が存在している。」ということ、私の命の中にはお父さんが居てくれ、お母さんも居てくれ、更にはおじいちゃんもおばあちゃんもみんな一緒に居てくれるんやな。」と初めて心から気づいたので。するとどうでしょうか。今までの不安や恐怖が嘘のように消え去り、なんとも言えない喜びと安心感

◎お経を習う会 仏教にまつわる色々なお勉強をしています。学びたいテーマがあればリクエストをどうぞ！ 毎月第2金曜日 19時～21時

が心に満ち、すーっと涙が頬をつたいました。

そんな事があつてからは、自然と肩の力が抜け、「自分だけの命と思わず、親先祖と共に生きていたのだから、無理し過ぎてはいかな。」と思い、楽しみながらボチボチと灌行を続ける事が出来、自然に「もうこれくらいでいいかな。」と感じた時には三年の月日が流れておりました。

そして灌行を終え、一番思った事は、「行」というのは灌に打たれる様な特別なことではなく、普通の生活の場にごそ本当の「行」はあるのではないか、という事です。それは子供さんであればイヤな勉強であつたり難しい友人関係であつたり、社会人であれば給料を稼ぐのに汗水流したり、勤め先で神経をすり減らしたり、主婦であれば、なかなか思う様にはいかない子育てや、やってもつい当り前に思われがちな家事など、そして年配の方であれば、身体が弱つてきて思わぬ事で怪我をした

り、病気になるやすくなつて、今まで出来た事が出来なくなる、そんなこと全部が人生の修行であり、人それぞれの与えられた『行』ではないでしょうか。

自分に与えられた、それぞれの「行」をかみしめ楽しみながら、時には、もがきながらも、自分の命の中で一緒に生きてくれている先祖と共に、ゆつくりと歩んでいきたいものだと思います。

合掌



「檀信徒の皆様へお願い」

本紙「轉法輪」送付先の住所・宛名の変更等があれば寺務所までご一報ください。

四国八十八カ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市

山 本 益 男

歩いているときは

いろんな事に出会ふのよ・・・

その 17

今回は、予定では「坂口屋」さんから第二十三番薬王寺までのお話となりますが、ちよつと寄り道をさせて頂きます。今回のお題はというと、「お地藏様」なのです。

お寺にはご本尊様という、ちゃんとした仏様がいらつしやいますが、歩き遍路ではよく出会うとある出来事から、今回は信仰の対象において「観音様」と人気の双壁である「お地藏様(地藏菩薩)」を取り上げてみます。ちなみに、日本全国でのお寺の数は七万五千

輪 法 轉 (7)

寺、神社は八万社、コンビニは五万二千店舗と言われますが、造像数においては「お地藏様」の数はおそらくこの比ではないと思われます。地藏菩薩は仏堂に安置されるより各地の寺院境内、村の入り口、峠、四辻、墓地の入り口などに安置されている姿を多く見かけます。堂内より野山、路傍に多いのは庶民信仰の表れでしょう。それと観音様は秘仏が結構ありますが、お地藏様は秘仏にされることが少ないのも人気の要因でしょうか。私見ですが、地藏菩薩がこれほど人々の間でとてもやされてきたは、現世利益と深く結びついた仏様だったからではないかと思えます。

菩薩の中でも、地藏菩薩は弥勒菩薩が仏になるまでこの娑婆世界で、仏になり代つて人々を救ってくれると言われ、色々なものに姿を変えて八面六臂の大活躍をするといわれます。「とげ抜き地藏」、「イボ取り地藏」、「子育て地藏」、「子安地藏」、「安産(腹帯)地藏」、

「田植え地藏」、「裸地藏」、「身代わり地藏」、「縛り地藏」、「延命地藏」、「勝軍地藏」やこの世に生をうけなかつた水子の供養をする「水子地藏」など、これ以外にも数え切れない程の専門的な名が付いたお地藏様が生まれたのは、それだけ一般大衆にどんな願い事でも頼める菩薩として認知されていたからではないでしょうか。こうして現在に至るまで、お地藏様は、子守り歌、昔話、童謡、はては「これこれ石の地藏さん・・・」と流行歌(ちよつと古いかつ)にまで登場している特異な存在の仏様なのであります。

一般的にお地藏様のお姿は、頭を丸め、衣を身にまといお坊様のようなお姿で表されます。こうした姿を声聞形とか比丘形といいますが、これは、衆生の救済の為に沙門のままの姿で急いで六道(仏教において迷いあるものが輪廻するという、六種類の迷いある世界を示し、天道、人間道、修羅道、畜

生道、餓鬼道、地獄道に分類される)にやつてきたからだといわれます。手には左に宝珠、右に錫杖を持つている形が多く、手の形は施無畏印(手を上げて手の平を前に向けた印相)、与願印(手を下げて手の平を前に向けた印相)が普通ですが、分類的には与願印の方が多く、衆生のさまざま恐怖を取り去つて救うことの意を示す印だそうです。

お地藏様は不思議な仏様で、子供の姿をしているものが多く(これも理由があります)、じつと向き合つていても少しも怖くありませんし、頭をなでても肩をたたいても怒りそうもない暖かさを感じます。また、よく路傍のお地藏さんには暑かろう、寒かろうと心根が優しい方が帽子を被せたお姿をよく見かけますし、道端の石仏などは、一緒に並んでぼんやりと空でもながめている姿は絵になります。合掌

(後編につづく)

◎タイコの会 お経を唱える時に合わせられるタイコを練習しています。28日の護摩供にも出番!! 月3回の練習日があります。

六十五年を

振り返って

橋本市

小松英子

(九十一才)

私が轉法輪寺のお寺に御縁を頂き、初めてお参りしたのは私が二十五才の春のことです。主人の姉と、幼い次女を「おんぶ」して、大和二見の駅から歩いてお参りさせて頂きました。それから、三人の子どもが小さい頃は、主人の父がお参りをしてくれて、学校に行くようになれば、近所のおばさん方と一緒に参りをさせて頂いてもらいました。農繁期には、朝早くお参りを済ませて帰ったこともありました。

今まで六十五年の間には、たくさんの方がありました。主人が勤務先で、いつものように仕事に使う散水ホースを干そうと、倉庫の屋根に登っていた時のことです。作業中にスレート瓦が割れて、大きな機械がたくさん並んで

いる倉庫の中に転落したのです。幸い手首の骨が折れる程度で済みました。が、落ちる場所がもう十センチずれていたら、頭を機械に打ち付けて大変な事故になるところでした。

主人が六十六才の二月に、右耳の後ろの、神経と血管の交差する場所に腫瘍ができました。主治医の先生は「悪性ではないが、えらいところにできたね」と手術の大変さを話されました。十一時間あまりの大手術は無事に終わり、心配していた視力聴力共に支障なく、快復させて頂きました。晩年には、のどにお餅を詰まらせて、仮死状態で病院へ運ばれるということもありましたが、無事に助けて頂いて、孫娘とボール投げやカルタ取り、トランプ等で楽しく過ごし、九十二才で「有り難う」の言葉を残して安らかに旅立っていました。

その後、私も胆のうにポリープができていくことがわかりました。お医者様は「開いてみないとわからない」といわれます。家族や娘たちに大変心配

をかけたましたが、幸い良性であることがわかり、一週間で退院できた時はみんな手を取り合って喜びました。

数々の災難を受けながらも、大きな御守護を頂き、助けて頂いて一日一日感謝しながら過ごさせて頂いている私達家族です。今年九十一才を迎えることができ、家族と共に参りできる幸せを有難く思いながら過ごす毎日です。

表紙「大師のお言葉」より私訳

しばしば人は自分の得意なもの、慣れ親しんだものばかりに目を向けてしまいがちです。もちろん、専門分野を掘り下げてプロフェッショナルとなることは立派な事です。ただ、それを専門外の世界でどのように生かすのかを考えるためには、広く物事を知らなければならぬ、と大師は仰られました。仏教のみならず、教育や治水事業など幅広く活躍された大師ならではの言葉です。「連携と協働」。現代のテーマをすでに見抜いていたのですね。

皆さまの体験談を募集しています。印象に残っている出来事や、救われたという思い…。振り返って文章に書き残してみませんか？掲載時は匿名でも結構です。

(9) 轉 法 輪

心ひかれる仏教の話

～西山 厚先生 連続講座～

〈講座日程〉

- 第1回 4月27日(水) 正御影供「鑑真和尚の足跡をたどる」
- 第2回 7月3日(日) 「福祉の先人を慕う～はるかなる空海の弟子たち～」
- 第3回 9月25日(日) 「春日大社の不思議～かみとほとけの世界～」
- 第4回 12月18日(日) 「お大師さまと奈良」

受講料：3講座 2,000円

※テーマは変更する場合があります。

初回は正御影供の講演とかえさせていただき、入場無料です！

第2回～4回は3回で2000円、当日受付は1講座1000円です。



行事報告



「花舞」演奏会
去る三月二十一日、橋本高校・古佐田が丘中学校の邦楽部生徒たちの出演による「花舞」演奏会を開催しました。全国大会に入賞を続けている名門校のこと、演奏は言わずもがな、立ち姿から礼に至るまで凛とした格好の良さを感じます。きらびやかで豊かな音色に心をほぐされたかと思いきや、緊迫した演奏の場面では、思わず息をのむようなスリリングさ。今後の活躍に、みなさま注目です！

行事報告は こちらでチェック！

轉法輪寺公式ホームページ

<http://www.inukai.info>

〈犬飼山〉で検索！

本紙「轉法輪」以前発行したものもご覧いただけます。

メールでの問い合わせ

E-mail: mail@inukai.info



フェイスブックでは行事報告の写真を掲載しています。

法要後のゲスト募集！

轉法輪寺は皆さまの活動を応援します！法要に集まれた参拝の方々に、日ごろの成果を発表してはいいでしょうか？披露のできる場をもっと広げたいけれど、出番に巡り会わない！そんな方にステージを提供できればと考えています。自薦・他薦は問いません。まずはご相談くださいませ！（毎月21日・28日法要の後11:30頃から30～40分程度）

にぎりじぞう教室開講!! かわいい土のお地藏さんを作りませんか？一つとして同じものはありません。お気軽にどうぞ！隔月開催（参加費500円 事前申込制・定員10名）

来る4月27日(水)

◆もちまき

2時半ごろ



◆法要

午前10時より



正御影供

講演 午後一時より

帝塚山大学教授

西山 厚先生

「生きた言葉で語り伝える」をモットーに活動されている西山先生。「教授」という固いイメージから離れ、深い愛情と共感をもって仏教と日本のところをお話しいただきます。

〈プロフィール〉

1953年徳島県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。奈良国立博物館学芸部長を経て、2014年4月より帝塚山大学文学部教授に就任。新聞連載・テレビ出演など多数のメディアで活動の場を持つ。主な著書に『語り出す奈良118の物語』（ウエツジ）、など

西山厚先生 連続講座

開講決定!!

詳細は本紙9ページにて記載しております。

シャトルバスのご案内

今回、橋本駅〜轉法輪寺間の小型バスを運行します。どうぞご利用下さい。

シャトルバス時刻表

橋本駅発	7:30
	8:30
	9:30
	10:30
	11:30
轉法輪寺発	13:30
	14:30
	15:30

—ご奉仕のお願い—

正御影供の諸準備のため、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

四月二十六日(火) 餅つき・旗立 掃除など

四月二十七日(水) 当日(八時から)

お世話人様は、ハツピ袈裟腕念珠をご着衣下さい。

四月二十八日(木) 後片付け

〈お知らせ〉

四月二十一日(木)は、不動尊護摩供に振り替えと致します。



お世話人さま募集！お寺の行事に関わってみませんか？年齢等不問です。お寺を通じて、幅広い知り合いを作りましょう！